

令和7年度宮城県後期高齢者医療広域連合懇談会

令和7年度も昨年度に引き続き県内3会場で懇談会を開催し、各地区の被保険者や医療関係者の皆様から貴重な御意見や御提案をいただきましたので、お知らせします。

記

○詳細

地区	開催地	開催日	開催場所	参加人数
県北	気仙沼市	令和7年11月6日（木）	気仙沼市民健康管理センター 「すこやか」	9名
県央	大郷町	令和7年11月12日（水）	大郷町役場	8名
県南	岩沼市	令和7年11月19日（水）	岩沼市役所	9名

＜座長挨拶＞

事務局次長挨拶

＜出席者の紹介＞

出席者全員自己紹介

＜事業概要に基づき説明＞

保険料課長、給付課長説明

＜懇談概要＞

被保険者①

今回の資料の中で特に関心を持ちましたのは「令和7年度後期高齢者医療の事業概要」の17頁「県内市町村別健康診査受診率の状況」です。受診率が高いということは、被保険者が自身の健康状態を把握することはもちろんですが、生活習慣病の早期発見や健康の保持増進に大いに貢献していることが伺われます。受診率が高く素晴らしい実績を上げている市町村では、それなりの創意工夫をして、努力され、実践されている成果であると私は思っています。その素晴らしい取組や活動内容を他の市町村に紹介することは大いに刺激になり参考になるものと思っています。

事務局

健康診査の受診率が高い市町村は、受診対象者全員への通知、休日や夜間の実施、がん健診と同時に受診が可能、複数の健診会場で受けられる、事業実施期間を長めにとっているなどの理由により、受診率が高くなっている傾向があります。また、当広域連合としては、年に一度、保健事業や健診担当者を招いて、受診率が高い市町村の取組を研修等の機会を設けて紹介しています。

被保険者②

「令和7年度後期高齢者医療の事業概要」資料の16頁「歯科健診事業」ですが、去年75歳となり、無料で受けられますと通知がきました。しかし、かかりつけの歯科医院が実施対象外でした。自分が治療してもらっている歯科医院以外のところに健診に行くのは勇気がいるなと思い、何か良い方法はないかと考えました。また、マイナ保険証の利用について、今日の新聞にマイナ保険証の交付は7割8割にもなっているようですが、実際は3割くらいしか使っていないと掲載されていました。窓口で上手く読み取りができなかつたと聞いたこともあります。もう少し利用に当たっての注意点や利便性を詳しく周知した方が、利用率は高くなるのではないかと思っています。来年、資格確認書の取扱いについても変わるものなので、そういったところをもう少ししていただきたいなと思いました。

事務局

「歯科健診事業」は 75 歳の後期高齢者になった後、早い段階でご自身の歯の健康状態や嚥下機能を確認いただくためにご案内をしています。また、県医師会などでも毎回登録医療機関の話題になり、講習について説明しているところではありますが、講習に参加することに負担を感じている医療機関や、講習を受けてまで登録医療機関になりたいと思わない方もいるようです。そのため、広域連合では来年度に登録医療機関を増やす取組として、県内の数か所で説明会を行うことを計画しています。市町村にも歯科医師の先生方と関わる場面では、登録医療機関になっていただけるように働きかけをお願いしております。

被保険者②

歯科医師の先生方が講習を受けるのが大変であれば、もう少し簡潔なやり取りで対応することも必要かと思いました。

事務局

マイナ保険証は病院で読み取りができなかったり暗証番号を忘れてしまったりした場合でも、病院の窓口に相談いただければ目視で確認もしていますので、ご利用いただければと思います。利用率が低い理由は、マイナ保険証を使うこと自体にハードルが高い感じる方や、登録しているが利用はしていないといった方々が多くいるようです。今は来年の 7 月まで暫定としてマイナ保険証をお持ちの方にも資格確認書を発送していますが、暫定期間後はどうなるか見通しがたっていないため、マイナ保険証をお持ちの方には資格確認書が手元に届かない旨の広報もしていかなければならぬと考えております。

被保険者③

本日の懇談会に参加された方は皆さん後期高齢者かと思います。前期高齢者を入れるなどして、幅広く意見を聞いても良いのではないかと思いました。

事務局

現状は懇談会の人数も限られていることから、被保険者の方々の意見を主に頂戴しております。現在の構成を変えることはすぐには出来ないかもしれません、このような意見があったことを参考にさせていただきます。

被保険者④

柴田町の健康推進課では、機械を使ってインボディの測定をしていて、筋肉や骨密度の測定ができます。参加者の中には、機械に合わず測定できなかった方も病院に行くなどして測定している人もいて、町の施策を通じて健康に興味を持っている人が増えていること

を感じています。私自身 3 年程このような取組をしていて健康を実感しますが、こういった取組を高齢者にアピールしてもらうことで、健康に繋がると思います。

事務局

令和 6 年度から各市町村で「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業」に取り組んでいます。その中のポピュレーションアプローチ（集団に対する健康教育・健康相談等によるアプローチ）の一環として、健康教育を通じたインボディ測定をされていると聞いています。柴田町は健診受診率が高く、その中でも男性の受診率が高い傾向から、健康意識の高さが伺えます。また、一人当たりの外来や入院費の医療費を下げるためには、健康づくりが必要と考えます。一方で、保健事業は全体的に男性の参加が女性に比べて低い傾向にあるため、今後も男性には引き続き参加していただければと思います。

被保険者④

柴田町では「しばた健康づくりポイント事業」に参加することで、ポイントの獲得ができる、一定ポイントが貯まると図書カード 500 円分と交換してくれます。「フレイル予防」もあって、仙台大学の講座で「元気はつらつお達者 day」があります。出前で筋力維持に向けた取組をしていただけるので、環境的には他よりも恵まれているかなと思っています。

被保険者⑤

広報事業について、果たしてどれだけの人が見るのが見るのが見のかといったところだと思います。冊子になると手に取るのを躊躇して見ない方もいると思います。市町村の広報に、例えば先ほど説明があったジェネリック医薬品の欄をスポット的に設けるとか、健診の時期には健診に行くことでどれほど良いことがあるかといったコラムを掲載するなどして、広報を利用した活動をされると良いかなと思いました。

事務局

広報の中で、スポットをあてたコーナーを持つことも、確かに良い考えだと思いました。

医療関係者①

被保険者②さんにお聞きしますが、大河原町の受診率が高い理由として、何か思ひたることはありますか。

被保険者②

高齢者の方を対象にしている取組の他にも、40 歳以上を対象にした特定健康診査もしていて、まずは、健康に关心を持ってもらい、受診率を高めているのかなと思っています。

事務局

当広域連合でも大河原町の受診率の高さを把握しており、具体的な取組として、健診の受診対象者全員に受診券の送付や、SNS を活用した周知に力を入れていました。また、他の市町村と違った点として、75 歳到達者の方に対して健診の重要性の説明会を開催しているようです。この他、通いの場として健康教室などで健診の重要性を説明していることや、自己負担が無料であることが、受診率の高さに繋がっている理由だと思います。

被保険者②

75 歳になる誕生月の前月に、保険証の交付と健康事業に関する説明会を毎月行っています。こういうことは県内全域でもやっていると思っていた。実際に参加すると、フレイルにならないようにしよう、自分でできることはやってみようといった気持ちになり、こういった意識付けされるのは一番良いことだと思いました。また、先ほど柴田町さんからもありましたけれど、大河原町ではウォーキング事業があり、歩くことでポイントが付いて、年間にどれくらい歩いたかを報告することで、抽選で商品券がもらえます。これは継続的に取り組むことで健康づくりの意識付けも図っているようです。この他にも希望者を集めてインボディやベジチェック、尿ナトカリ比チェックを無料ですることができ、数字をチェックして異常があれば、自分でも気づくので、健康づくりの役に立っていて積極的に参加しています。

医療関係者①

ご自身では、他の市町村でも普通にやっていると思っているわけですよね。

被保険者②

私はこのような取組は普通のことだと思っていた。実際にやってみると、続けると何となくその日一日の調子が良くないです。先ほど言っていた集団で行う取組ですが、私はちょっと駄目です。周りの男性に聞いてみても、女性はいろいろなことに参加するようですが、男性は自分だけでコツコツやることの方が合っているようです。

医療関係者②

「歯周病健診」や「妊婦歯科健康診査」は対象者が多いからか結構いますが、「後期高齢者歯科健診」を当院に受診する方はほとんどいません。歯科医師会とかの集まりでも「後期高齢者歯科健診」を受ける人は少ないという話になりました。それで、「令和 7 年度版後期高齢者医療の事業概要」17 項の「県内市町村別健康診査受診率の状況」を見て興味深かったのは、令和 5 年と 6 年の上位はほぼ同じ市町村になっています。岩沼市は 21 位と 20 位なので下から数えた方が早いんですけど、上位の市町村は先ほど SNS の話もあつたようですが、何か理由があるのかなと気になりました。歯科健診に関してもこういった

データはありますでしょうか。

事務局

75歳の方のみ対象としているため対象者が限られていることや、登録していただいている歯科医療機関の減少傾向などもあって、受診されている方が少ないように感じられるのかもしれません。できるだけ登録にご協力いただけるように取り組んではいるのですが。歯科健診のデータは、手持ち資料のみのため、後ほど皆様に配付いたします。

医療関係者②

今はスマホがあれば YouTube を視聴して、その後にメールや FAX で申請すると登録できるようになっているので、登録のハードルは低くなっています。

事務局

YouTube で講習を受けることにも抵抗がある方もいるので、来年度からは説明会の開催を実施する方向で県の歯科医師会と調整しています。登録を増やすことに広域連合と歯科医師会それぞれで頭を悩ませているのが現状です。

事務局

以前の懇談会の話になりますが、歯科医師の先生方が「歯科健診事業」に参加するにあたって、研修を受けなくてはいけないことや、検査項目について誰が決めているのかといった、登録に対して抵抗のあるご意見がありました。しかし、先ほどのお話を聞いたところ、登録へのハードルが低くなっているなど我々の認識とのギャップがありました。被保険者様から話があったように、かかりつけ医が登録されていないことで歯科健診に躊躇される方もおりますので、今回のお話について参考にさせていただきたいと思います。

医療関係者③

「懇談会説明資料」26 項についての質問ですが、ジェネリック医薬品差額通知には、昨年の 10 月から始まっている選定療養のベッド負担分は反映されますでしょうか。追加の負担分で保険請求に含まれていない分です。

事務局

含まれていなかったと思います。

医療関係者③

選定療養が入ると入らないのでは大きく変わりますので、検討していただきたいと思います。もう一点マイナンバーカードの件になります。「令和 7 年度後期高齢者医療制度

のご案内」内の 21 項から 22 項にマイナ保険証について書いてありますが、後期高齢者の方と行政の皆さんにとってもメリットの大きいシステムになりますので、是非とも進めていただきたいと思います。それに当たって、患者さんや皆さんもご存知ないのは、登録は案外簡単ということです。セブン ATM でもできます。こういった冊子ではなかなか見る機会もないですし、マイナンバーカードという言葉を聞くと自分には関係ないと思う人も結構いますので、簡単に手続きができるといった周知をしてもらいたいと思います。それには、マイナンバーカードは危なくないということを訴えてもらえばと思います。IC チップについても何も記録されておらず、ものとしては銀行のキャッシュカードと同じようなものなので、カードを紛失しても使われるようなこともないと思います。しかし、余計な心配を煽る方がどうしてもいます。少し前の話になりますが、マイナ保険証にすると窓口で患者さんの年収が分かるといったことが報道されました。こういったことについて、現実的な話をすれば、私たちは保険を請求する段階で限度額がわかるので、そんなことを心配する必要はないということを、患者さんに伝えていただきたく思います。

事務局

マイナンバーカードは国でも進めておりますが、マイナ保険証にすると持ち歩かなければならぬといった、心配される話を一時期良くお聞きする機会がありました。今後は機会を捉えて広報活動を頑張りたいと思います。

市町村後期高齢者医療担当課

岩沼市でも後期高齢者医療広域連合の委託を受けて「健康診査事業」や「高齢者の保険事業と介護予防の一体的な実施事業」をしております。大河原町の「健康診査事業」の取組について、県内でも受診率が高く、介護保険料も全国的に低い方でもあり、岩沼市の事業の参考として、昨年度大河原町の担当者とヒアリングなどを通じて、今年度から岩沼市でも同じことを始めてみました。毎月月末に市役所で 75 歳に到達する方に対して、制度の説明と資格確認書の広報を兼ねた説明会を開催しております。これまでに 7 回開催し、毎回 6 割から 7 割の方に参加いただいております。説明会では後期高齢者医療制度や保険料の説明をした後に、保健師による生活習慣病やフレイルに関する講話、管理栄養士による栄養指導などを約 1 時間かけて実施しております。対象者の方には、お手元の緑色のアンケートに事前にチェックしてもらっています。健康状態などに気になる方がいる場合には、説明会終了後に保健師や管理栄養士が個別に健康相談に対応しています。高齢の男性は、女性と比較すると外出しなくなる傾向にあり、懇談会の中でも話にありましたが、通いの場では女性の参加が中心になっております。一方で、この説明会では男性の参加率が高く、保健師や管理栄養士の話を聞いて、熱心にメモを取ったり質問したりする姿が見受けられます。アンケートの上半期の結果では、フレイルの認知度につきましては、「よく知っていた」が 29%と低い傾向にありますが、市の健康イベントの「みるカフェスペシャ

ル」に参加いただいた、健康意識が高い方の結果は 50%と高くなっています。この結果からでもわかるとおり、後期高齢者医療説明会は日頃市の健康教室やイベントなどに参加していない層の方と接触できる貴重な機会と捉えています。岩沼市の健康診査受診率は県内の市町村と比較すると少し低い方ではありますが、これらの健診の必要性について説明しているところであります。今後受診率が上がっていくことを期待しているところでございます。

事務局

こちらが先ほどご質問がありました歯科健診の受診率になります。岩沼市は、令和 5 年度から 6 年度にかけて減少傾向にあり、登録いただいている医療機関数などが背景にあるかもしれません。先ほど先生からお話をあった YouTube を使った受講についても、登録するための環境が以前よりも整っていることから、今後 P R していく中での 1 例として紹介してまいりたいと思います。

以上